プログラム (予定)

○第Ⅰ部　講演

①「東日本大震災復興支援ボランティアについて、学生の役割と意義について
～陸前高田市への支援から～」

講師：渡邊 豊 氏　　日本福祉文化学会前事務局長・新潟福祉文化を考える会代表
新潟地域福祉実践研究会会員・本学非常勤講師

本学教職員が 10 回にわたり活動を行った岩手県陸前高田市へ新潟県内社会福祉協議会の一員として駆け付け、陸前高田市災害ボランティアセンターの立ち上げに参加。全国から集まるボランティアのコーディネート (マッチング) を行っている災害ボランティアセンターの職員を支援するとともに、現地の状況を把握、新潟県内への情報発信をされました。中越地震、中越沖地震等の経験をいかして取り組んだこれまでの活動報告と、これからの支援の在り方について、被災地の当事者の目線に立ち、学生に望むことをご講演いただきます。

②「東日本大震災から 9 カ月、被災地の子どもと大学生の関わり合い
～子どもたちの輝き、ボランティア学生たちの輝き、
その学びを『リフレッシュ・キャンプ』から探る～」

講師：北見 靖直 氏　　独立行政法人国立青少年教育振興機構指導主幹

国立青少年教育振興機構では、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響により外遊びやプールの利用を控えるなど、日常生活の中で多くのストレスを抱えている福島県の児童･生徒を対象に、3 泊 4 日の「リフレッシュ･キャンプ」(主催：文部科学省、国立青少年教育振興機構　協賛：コカ・コーラ）を福島県及び栃木県で 18 回実施し、福島県内の小学校 1 年生から中学校 3 年生 (一部、就学前の子どもとその保護者も対象）男女 3,823 人が参加 (応募申込は 2 万人) されました。また、ボランティアとして 353 人 (大学生が 70%、CSR で企業や小学校の教員などが 30%）が関わりました。実施から 4 カ月が経ち、その結果がクローズアップされ､「外遊びが子どもの気持ちを改善させる」ということが明らかにされてきています。外遊びの必要性、ボランティア学生の必要性とその学生たちの輝きから、今後の展開の必要性と可能性、被災地との絆を考えていきます。

○第Ⅱ部　パネルディスカッション (報告 & フリップボードディスカッション)

①リレートーク「災害支援ボランティア活動を通じて感じたこと、そして “いま”」
②フリップボードディスカッション「今後、私たちにできること～継続支援に向けて～」

陸前高田市での復興支援ボランティア及び新潟県湯沢町へ避難されてきた方へのこころのケア等のボランティアに携わった本学学生及び教員の代表によるボランティア活動報告に加え、フロアからもフリップボードディスカッションにより参加いただき、これまでの活動の総括と、今後の支援活動の方向性を議論します。

○第Ⅲ部　学生による提言

本学の学生ボランティア参加者代表が今回のボランティアの経験と学びから、新潟青陵大学での震災ボランティアの可能性を提言。今後アクションプランを作っていくべく、今後の取り組みについて、提言を採択します。

同時開催

- **震災ボランティア活動記録のパネル展示**
- **本学震災復興支援ボランティア記録集の配布**

報告会参加者に「新潟青陵大学東日本大震災被災地復興支援ボランティア記録集 (上巻)」を配布いたします。
※記録集は上下 2 巻とし、上巻は記録編として、主に震災から全学ボランティアに至る取り組みの経過や各回団長の報告などを収録予定です。(下巻は提言編として、今回の報告会の記録、参加者アンケート結果、参加者のこれからの抱負、今後の震災ボランティアアクションプランなどを収録し､「フォローアップミーティングⅡ」(後述) で配布する予定です。)

今後の予定

SEIRYO 復興支援ボランティア活動フォローアップミーティングⅡ
(2 月下旬～ 3 月開催予定)

※中間報告会での提言をもとに、研修やワークショップ、継続的な復興支援ボランティアについて全国の大学ボランティアセンターなどとディスカッションを行う予定です。